

羽倉さんと「横浜こども科学館」

「横浜こども科学館」は横浜市の施設として1984年5月5日にオープンし、2008年4月1日からはネーミングライツを導入して「はまぎん こども宇宙科学館」の愛称で親しまれています。2017年には開館33周年を迎えますが、今でも年間約30万人の来館者で賑わっています。開館時には「オムニマックス映像」と東洋最大のプラネタリウムも話題となりました。

私と羽倉さんとの出会いは、開館1年目の1985年、石井勢津子さんを始めとする方々の企画による夏休み特別展「光のふしぎ～ホログラフィ」の時だったように記憶しています。この年は「つくば科学万博」が開催され、ポラロイド社で特大のホログラムを展示されているとのことでした。まるでSF映画に出て来るような未来的なホログラムにすっかり魅了された私に、羽倉さんは、科学館はホログラムの一般への普及に大きな役割を果たせると、とても熱心に語ってくださいました。

その後、「三次元映像のフォーラム」の研究会に何度か足を運びました。多くの研究者・企業の方が参加しておられて、3次元映像の幅の広さ奥の深さに目を見張りました。一方、高度な学術的な内容にはとてもついていけず、目を白黒させていました。羽倉さんは、そんな私を排除することなく、一般市民の代表として、また科学館を、青少年に未来を拓く窓口として位置付けてくださいました。その結果、下記の5回に亘り当館での特別展示を開催することができました。毎回多くの研究機関・企業・大学・研究者のご協力を頂き、幅広い3D映像の展示会となりました。最新の映像技術の紹介だけでなく、立体視の原理を体験しながら理解できるコーナーや、各種のホログラムもわかりやすい解説とともに展示されました。中でも羽倉さんの3Dグッズコレクションは数も内容も大変幅広く、宝箱のようでした。子供たちだけでなく、大人たちも一緒になって驚いたり、歓声を上げたりしていました。最後になった2009年の特別展は、共催ではありませんでしたが、企画協力として羽倉さん、桑山さんにアドバイザーになっていただき、20の研究機関・企業・大学・研究者にご参加いただき、展示だけでなく、トークショーとワークショップ、コンピュータ教室など、長期に亘り多彩に開催されました。羽倉さんが多くの関係者に声をかけてくださらなければ、これほど充実した内容にはなりませんでした。

- ・1989年10月8日～15日「広がる3Dの世界」
- ・1996年7月21日～9月1日「3Dあるみたい展」
- ・2000年5月21日～7月9日「光のふしぎ～ホログラフィ2000」
- ・2005年3月3日～4月4日「@！おどろく3D展」
- ・2009年10月10日～2010年1月11日「3D！脳と目のびっくり展

— 3D立体映像技術の発展と未来を担う青少年のために —

羽倉さんを思い出すと、いつも優しい笑顔でした。今は天国から、3Dメガネで世界を見守っておられることでしょう。

はまぎん こども宇宙科学館 林良子